

19

49

獸醫必携

穴山篤太郎編

064843-000-7

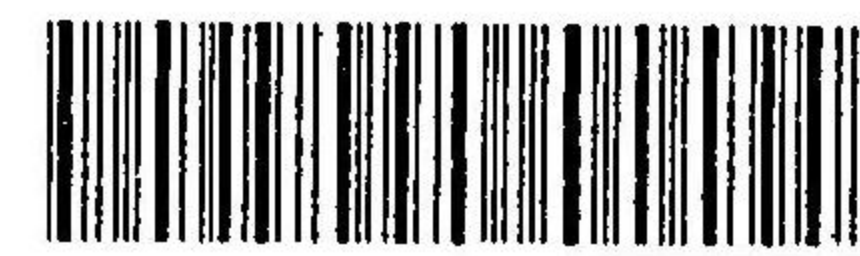
19-49

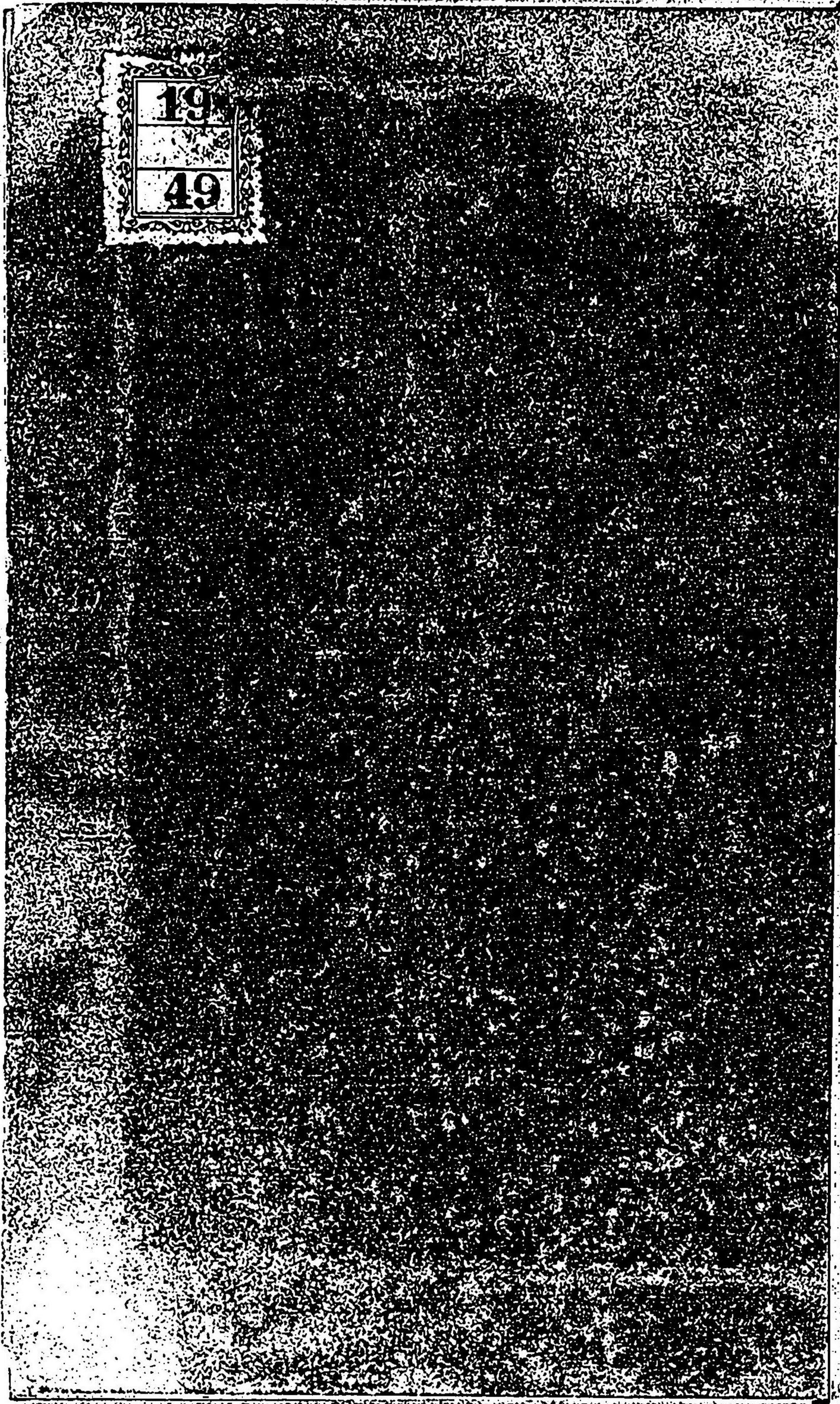
獸醫必携

穴山 篤太郎 / 編

M18

CCD-0296

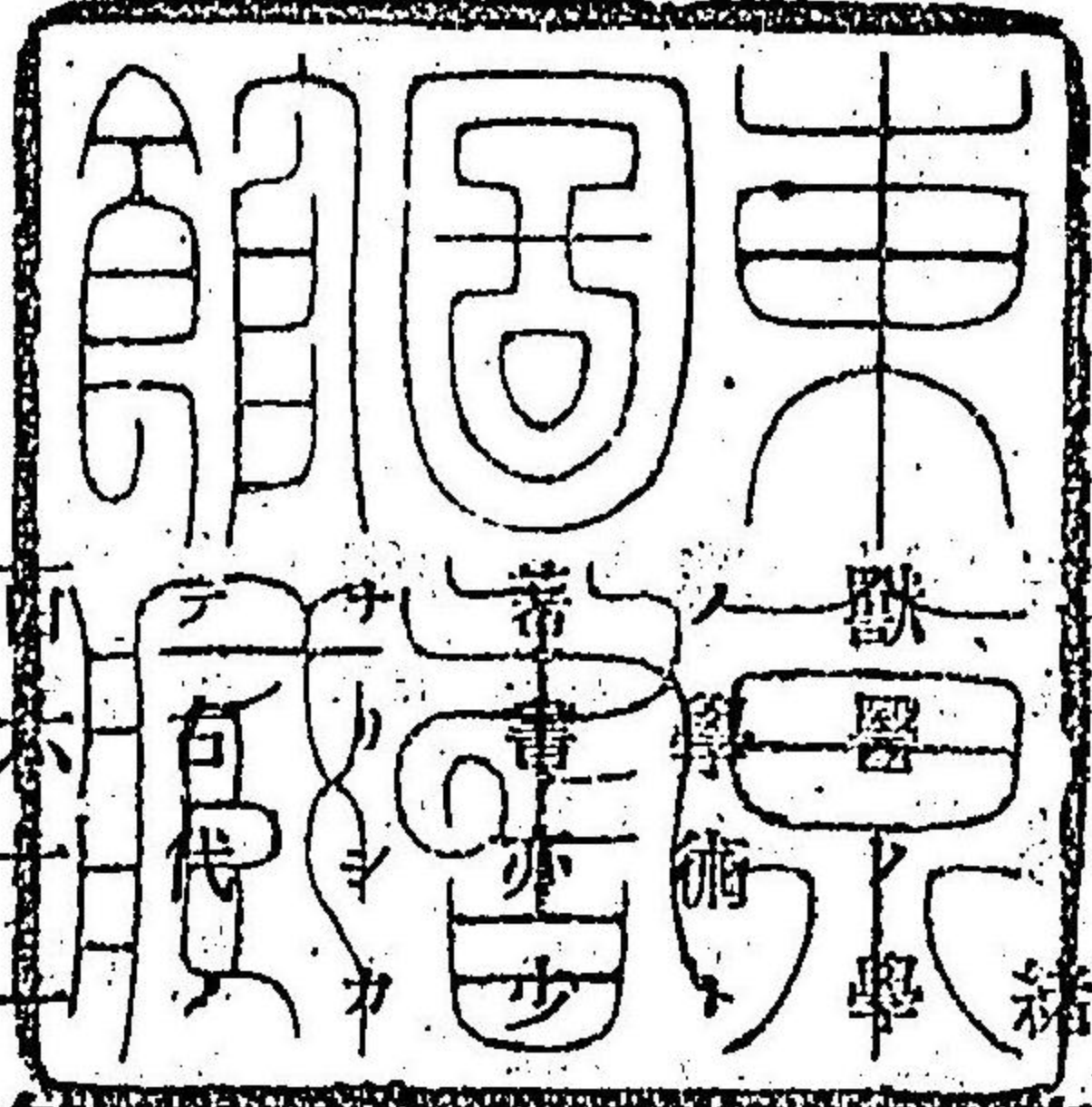




19
49

明治十九年一月九日内務省贈付

獸醫必携



緒言
 獸醫ノ學術ハ遠ク其端ヲ希臘羅馬ノ盛時ニ開キ一般人醫
 共ニ夙ニ歐亞ノ間ニ並ヒ行ハレテ學理漸精ク其
 カラサリシモ羅馬ノ亡ヒシ以來幾ト中絶ノ狀
 洋紀千七百年代ニ迨ヒ佛帝弗蘭西斯第一世命
 獸醫書ヲ拉甸語及ヒ當時ノ國語ニ譯セシメ千七
 百六十二年獸醫學校ヲ里昂府ニ創メ千七百七十六年次テ
 宏壯ナル獸醫學校ヲ巴黎府近傍ノ亞爾堡ニ建ツ是ニ於テ
 カ千七百九十二年英國獸醫學校ヲ龍動府ニ創メ次テ蘇國
 依丁堡ニ一校ヲ建テ今ヲ距ル三十餘年前ニ及ヒ米國又一
 校ヲ紐育府ニ創建シ其他歐洲諸邦年々逐フテ漸斯學ノ進
 歩ヲ勸奨スルニ至レリ本邦亦古來正規ノ獸醫術ナシ隨ヒ

テ真正ノ獸醫術アラズ唯幕政ノ時代ニ方リ幕府及ヒ大小諸侯ノ下ニ馬醫ト稱スル者アリテ馬病ノ醫治ヲ掌リ又馬役ト稱スル者アリテ調馬ノ餘間馬醫ノ職ヲ兼テ行ヒシアルノミ其他ハ所謂伯樂ナル者ニシテ僅ニ村閭ノ病畜ヲ治療シ又博勞ナル者ニシテ牛馬牙保ノ餘業或ハ之ヲ兼テ營ミシニ過キス且此輩素ヨリ生理、病理ノ學ヲ會スルニ非ス衛生藥性ノ理ヲ解スルニ非スシテ刺針絡鐵徒ラニ陳法ヲ固守スルノミナラス或ハ苛酷殘忍ノ技ヲ施シテ終ニ動物ヲ非命ノ慘境ニ陷レシ者少ナカラザリキ然ルニ明治ノ中興ニ至リ盛世ノ聖澤布テ家畜ニ及ヒ明治六年陸軍軍馬局中ニ病馬廐ヲ設ケ馬醫生徒ヲ徵集シ佛國陸軍獸醫安護氏ヲ聘シテ之ヲ薰育セシメ十年又內務省舊勸業寮所轄東京內藤新宿試驗場中ニ農學教場ヲ置キ生徒ヲ招募シテ專

農學ヲ攻修セシム課中亦獸醫ノ科アリ英國ノ獸醫馬佩^メ來^{ライ}特氏ヲ聘シテ之カ教授ニ任シ十一年一月之ヲ駒場ノ新築ニ移シテ更ニ駒場農學校ト稱シ獸醫學ノ專門科ヲ置キテ農學、農藝化學ノ二專門科ト並ヘ立テ以テ大ニ本邦獸醫學ノ進路ヲ開カレ又下総種畜場中ニ獸醫科ヲ置キ專速成ヲ主トシテ獸醫生ヲ教養セラル之ヨリ前後公私ノ獸醫學校漸腫ヲ接シテ興リ與ニ共ニ斯道ノ學者ヲ出ス是ニ於テカ本邦始メテ專門ノ獸醫學者アリ特ニ其學士ノ榮名ヲ付與セラル、者アルノミナラス今ヤ又獸醫免許規則ノ制定アリテ輩ノ獸醫ノ資格ヲ保護セラル其旨他ノ亞細亞諸邦ニ率先シテ大ニ護獸利民ノ實ヲ天下ニ洽カタシメ併セテ此學ノ開進ヲ圖ラントスルニ在ルカ蓋本邦ノ亞細亞ニ於ケル恰佛國ノ歐羅巴ニ於ケルト其地位ヲ同フルモノト

云フヘキナリ今此書ノ編成ニ際シ聊内外獸醫ノ學術ニ係
ル沿革ヲ概記シ以テ緒言ニ代フ

明治十八年十一月 編者 識

獸醫必携目次

獸醫免許規則 註釋
獸醫開業試驗規則

附受驗人心得

明治十九年第一回獸醫開業試驗舉行地方及期日

疫牛處分假條例

傳染牛疫豫防法並斃死後處置

駒場農學校規則

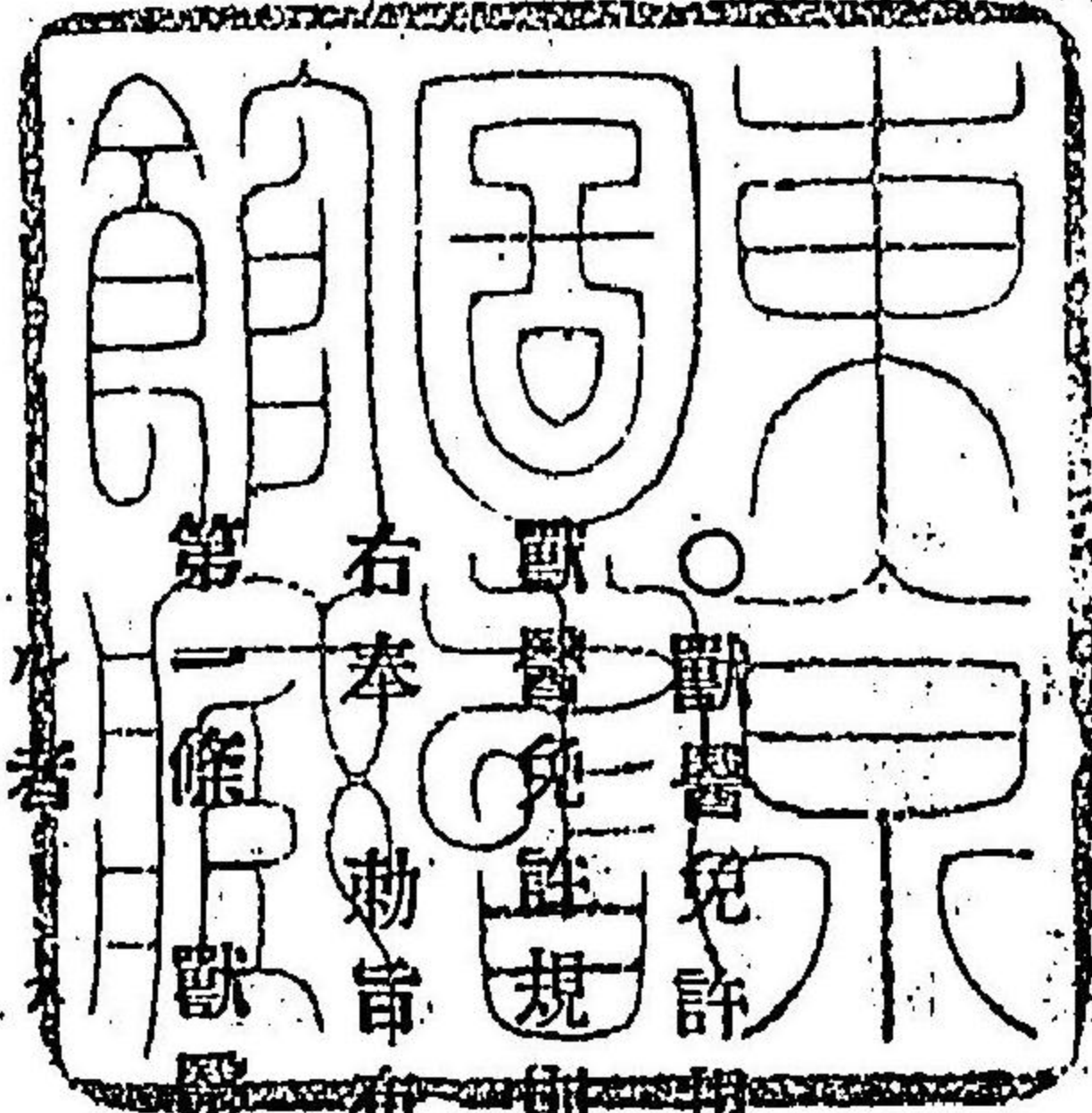
同 獸醫學別科規則

獸醫書目

獸醫必携

平野師應校閱

穴山篤太郎編纂



○獸醫免許規則 明治十八年八月二十二日
太政官第貳拾八號布告

○獸醫免許規則別冊ノ通制定シ明治十九年七月一日ヨリ施行ス

右奉勅旨布告候事

○獸醫學術ノ試験ヲ受ケ農商務卿ヨリ開業免狀ヲ得タ

ル者

〔註釋〕凡獸醫ノ業ヲ營ム者ハ必獸醫ノ學術諸科ノ試験ヲ受ケ農

商務卿ヨリ獸醫ノ開業免狀ヲ得タル者ニ限ル故ニ此他ハ何人

ヲ論セス獸醫ノ業ヲ營ムトヲ得サルナリ其試験ニ係ル事項ハ

下ニ掲クル獸醫開業試験規則ヲ參看スヘシ

參看 廣島縣ヨリ獸醫ノ儀ニ付伺 明治十八年九月五日

今般第貳拾八號ヲ以テ獸醫免許規則布告相成候ニ付テハ從來本縣ニ於テ開業免狀ヲ授與シタル獸醫ハ規則第一條ニ據リ明治十九年六月限り消滅スル儀ニ候哉將タ本縣開業免狀ヲ締認シ更ニ御省ニ於テ免狀御下付可相成儀ニ候哉

指令 明治十八年 同ノ趣前段伺之通(明治十八年九月十九日官報)

福島縣ヨリ獸醫ノ儀ニ付伺 明治十八年十月九日

從來ノ馬醫ナルモノ數村ノ農馬病馬ニテ集メ蹄剪刺絡等ノ術ヲ施シ來候處本年第貳拾八號公布實施後ハ右蹄剪刺絡共ニ獸醫ニアラサレハ施術不相成候哉

指令 明治十八年十月 同之通(明治十八年十月二十六日官報)

第二條 開業免狀ヲ得ントスル者ハ試驗及第證書ヲ以テ地方廳ヲ經由シテ農商務省ニ願出ツヘシ

〔註釋〕獸醫ノ開業免狀ヲ得ントスル者ハ第一條ノ如ク獸醫學術

諸科ノ試驗ヲ受ケ其及第證書ヲ開業願書ニ添ヘテ各自ノ管轄地方廳ニ出シ農商務省ニ進達ヲ願出ツルナリ

第三條 官立及府縣立ノ獸醫學校若クハ農學校ニ於テ獸醫學ノ卒業證書ヲ得タル者其證書ヲ以テ開業免狀ヲ得ンコトヲ願出ツルトモハ農商務卿ハ試驗ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

〔註釋〕官立及ヒ府縣立ノ獸醫學校若クハ農學校例ヘハ農商務省直轄ノ駒場農學校、札幌農學校、巖手ノ縣立獸醫學校、新潟、福島、廣島、山口、福岡等ノ縣立農學校又ハ山梨、宮城、山形、石川、大分等ノ縣立農事講習所ノ如キ諸學校ニ於テ獸醫學ノ卒業證書ヲ得タル者ニ限り第二條ニ掲ケラレタル及第證書ノ例ニ仍リ之ヲ開業願書ニ添ヘテ各自ノ管轄地方廳ニ出シ農商務省ニ進達ヲ願フキハ農商務卿ニ於テ詮議ノ上法ノ如ク獸醫學術諸科ノ試驗ヲ要セスシテ開業免狀ヲ授與セラル、コモアルナリ

參看 青森縣ヨリ獸醫開業ノ儀ニ付伺 明治十八年九月十六日

今般本縣ニ於テ駒場農學校獸醫科得業生ヲ準判任御用掛ニ採用候處右ハ第貳拾八號布告獸醫免許規則第三條ニ依リ卒業證書ヲ以テ開業免狀ヲ得ンコト願出ルキハ直ニ該免狀ヲ授與セラル、モノト存候得共元來獸醫術得業生タルノ資格ヲ以テ採用致候モノニ候ヘハ在官中ハ別ニ開業免狀ヲ願出ス候トモ他開業獸醫ト同ク隨意ニ人民ノ求メニ應シ牛馬并ニ諸畜治療爲致候テ差問無之候哉

指令 明治十八年 伺之趣官職之有無ヲ問ハス開業免狀ヲ有セサル者ハ人民ノ求メニ應シ治療不相成儀ト可相心得事 明治十八年十月六日官報

第四條 外國ノ獸醫學校者クハ農學校ニ於テ獸醫學ヲ卒業シタル者或ハ外國ニ於テ獸醫ノ開業免許ヲ得タル者其卒業證書又ハ開業證

書ヲ以テ開業免狀ヲ得ンコトヲ願出ツルトキハ農商務卿ハ其證書ヲ審査シ試驗ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

〔註釋〕歐米諸國ノ獸醫學校即「ヴェテリナリイ、コルレイシ」若クハ農學校即「アグリカルチュウラル、コルレイシ」ニ於テ獸醫ノ學術諸科ヲ卒業シタル者ハ其卒業證書ヲ又歐米諸國ニ於テ獸醫即「ヴェテリナリヤン」ノ開業證書ヲ以テ第二條ニ掲ケラレタル及第證書ノ例ニ仍リ之ヲ開業願書ニ添ヘテ各自ノ管轄地方廳ニ出シ農商務省ニ進達ヲ願フキハ農商務卿ニ於テ其證書ヲ審ニ檢査セラレ詮議ノ上法ノ如ク獸醫學術諸科ノ試驗ヲ要セスシテ開業免狀ヲ授與セラル、コトアルナリ

第五條 獸醫ニ乏シキ地ニ於テハ府知事縣令ノ具狀ニヨリ農商務卿ハ獸醫學術ノ試驗ヲ經サル者ト雖モ其履歷ニヨリ假開業免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

〔註釋〕獸醫ノ人員乏シキ地方ニ在リテハ其府知事若クハ縣令ノ具狀ニヨリ農商務卿ハ獸醫學術諸科ノ試験ヲ經サル者ト雖モ會テ獸醫ノ職ヲ以テ公私ニ仕事セシカ又ハ第三條ニ記載セラレタル諸學校ヲ除キテ他ノ公立及ヒ私立ノ獸醫學校若クハ農學校例ヘハ東京府小石川ノ私立獸醫學校、鳥取縣倉吉、長崎縣壹岐等ノ公立農學校ノ如キ學校ニ於テ獸醫學ノ卒業證書ヲ得タルカ又ハ年來久シク獸醫ノ業ヲ營ミ既ニ其業ニ經驗練熟セル等其履歷ニヨリテ獸醫ノ假開業ノ免狀ヲ授與セラル、イモアルナリ蓋我全國獸醫ノ人員ハ本年一月農商務省ニ於テ調査セラレシ所ニ據レハ左ノ如シ

獸醫學士 三拾名

内東京府七名、新潟、愛知、札幌、巖手ノ四縣各貳名、大阪府外拾五縣各壹名

陸軍卒業馬醫

貳拾八名

内東京府貳拾五名、京都府外四縣各壹名

農商務省所轄農學校本科卒業獸醫 五名

内東京府外四縣各壹名

同 別科卒業獸醫

三拾九名

内東京府五名、宮城縣外四縣各四名、青森、大分ノ二縣各三名、長野縣貳名、埼玉縣外八縣各壹名

開業獸醫

五千八百六拾五名

内最多者鹿兒島縣五百四拾壹名、最少者沖繩縣貳名、全無者根室、富山、佐賀、宮城ノ四縣トス

合計

五千九百六拾七名

右ノ内農商務省所轄農學校本科卒業獸醫ニ壹名本年七月ニ至リ駒場農學校ニ於テ學位ヲ授與セラレ故ニ五名ノ處減シテ四

名トナリ獸醫學士ニ壹名ヲ増シテ三拾名ノ處増シテ三拾壹名トナレリ又同七月駒場農學校ニ於テ獸醫ノ學位及ヒ卒業證書ヲ授與セラレシ者左ノ如シ

拾名

内東京府四名、岡山縣貳名、京都府外三縣ニ各壹名

五名

同 得業生 内青森縣貳名、秋田縣外貳縣各壹名

七名

内 別科卒業獸醫 内埼玉縣三名、長崎縣外三縣各壹名

貳拾貳名

合計 五千八拾九名

此他又一月以後ニ至リ開業、廢業等コテ多少増減ヲ生ゼシナルヘシト雖モ今姑前記ノ總計ヲ現員ト見做スモハ我全國ノ家畜

頭數(農務局最近ノ調査即明治十五年ノ現數牛百拾六萬百四拾七頭、馬百六拾四萬四千百六拾五頭ニシテ羊豕ハ未タ詳ナラス)ニ比例シテ甚少ナキニ非サルカ如シ然レモ一々其内譯コツキテ觀ルキハ鹿兒島縣ノ如キ開業獸醫ノ最多キ五百四拾壹名ニ及フモノアルニ反シ沖繩縣ノ如キ其最少ナキ僅ニ貳名ニ過キサルモノアリ甚シキハ根室、富山、佐賀、宮城四縣ノ如キ實ニ壹名ノ開業獸醫タニ無キモノアリ其因リテ然ル所以ハ全ク地方畜産業ノ開ト未開トノ如何ニ在ルカ蓋本條ノ明文アル所以ナラ

第六條

開業免狀ヲ得ル者ハ免狀下付ノ節手数料金壹圓ヲ納ムヘシ〔註釋〕前條ノ順序ヲ經タル後農商務卿ニ於テ其願意ヲ許可セラレ各自ノ管轄地方廳ヲ經由シテ獸醫ノ開業免狀ヲ得タル者ハ之ヲ下付セラレタル節直ニ手数料トシテ金壹圓ヲ其廳ニ納ム

第七條 開業免狀ヲ得タル者ノ氏名本籍ハ農商務省ノ獸醫籍ニ登録
シ時々之ヲ公告スヘシ

〔註釋〕前條ノ順序ヲ經愈獸醫ノ開業免狀ヲ得テ免許獸醫トナリ
タル者アルキハ農商務省ノ主務局ニ於テ何府縣士族又ハ平民
何某ト其氏名本籍ヲ獸醫籍ニ登録セラレ官報其他ノ手續ヲ以
テ時々廣シ之ヲ世ニ公告セラル、ナリ

第八條 開業免狀ヲ毀損亡失シ又ハ氏名本籍ノ變換ニヨリ免狀ノ書
換ヲ願フ者ハ其事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シテ農商務省ニ願出ツヘ
シ

〔註釋〕獸醫ノ開業免狀ヲ火災盜難紛失遺忘等ニテ失ヒタルカタ
メ更ニ下付ヲ要スルカタ又ハ各自身上ノ異動例ヘハ養家相續復
籍別戸等ニテ氏名ヲ換ヘタルニ因リ免狀面ノ記載ニ變動ヲ生

シタルカタメ其書換ヲ願フ者ハ一々其事故因由ヲ記シタル願
書ヲ作り之ヲ各自ノ管轄地方廳ニ出シテ農商務省ニ進達ヲ請
フナリ

第九條 開業免狀ノ書換ヲ願フ者ハ免狀下付ノ節手数料金貳拾五錢
ヲ納ムヘシ

〔註釋〕第八條ノ順序ヲ經テ獸醫ノ開業免狀ヲ更ニ下付若クハ書
換ヲ願ヒタル後農商務省ニ於テ其願意ヲ許可セラレ各自ノ管
轄地方廳ヲ經由シテ再其免狀ノ下付ヲ得タル者ハ之ヲ下付セ
ラレタルキ其手数料トシテ金貳拾五錢ヲ其廳ニ納ムルナリ

第十條 獸醫開業又ハ死亡シタルトキハ地方廳ヲ經由シテ其開業免
狀ヲ農商務省ニ返納スヘシ

〔註釋〕免許獸醫ニシテ自己ノ便宜ニヨリ其營業ヲ廢止シタルカ
若クハ死亡シタルキハ詳ニ其事故因由ヲ記シタル届書ヲ作り

テ之ニ豫テ農商務省ヨリ下付セラレタル獸醫開業免狀ヲ添ヘ
廢業ナラハ本人ヨリ死亡ナラハ遺族親戚等ヨリ之ヲ各自ノ管
轄地方廳ニ出シ農商務省ヘ返納スルナリ

第十一條 獸醫其業ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行爲アルトキハ農商務

卿其業ヲ停止若クハ禁止スルコトアルヘシ

但其事開業免狀ヲ得ルノ前ニ在リト雖モ本條ニ準シ處分スルコ
トアルヘシ

〔註釋〕獸醫營業上ニ關シタル罪ヲ犯スカ若クハ不正ノ行ヲナシ
タルト例ヘハ猛惡ナル牛馬疫等アルヲ知リテ隱蔽シ且其使用
ヲ縱容セシカタメ遂ニ其病毒ノ傳染ヲ幫助セシカ如キ其他總
テ營業上爲ス可カラサル事ヲナシタルトキハ農商務卿ニ於テ期
ヲ限リ其業ヲ營ムトテ停止セラル、カ若クハ全ク其業ヲ營ム
トテ禁止セラル、トアリ且其行爲ハ縱令獸醫開業免狀ヲ得タ

ル以前ニ在リシ事タリト本條ニ準シテ同様ニ處分セラル、ト
モアルナリ

參看 刑法第二百四十九條

獸類ノ傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ獸類ヲ他處ニ出シ
タル者ハ十一日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ五圓以上五
拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 前條ニ據リ獸醫業禁止ノ處分ヲ受ケタル者アルトキハ地
方廳ニ於テ直チニ其開業免狀ヲ取上ケ之ヲ農商務省ニ返納スヘシ
其停止ノ處分ニ係ルモノハ幾年月日間停業シタル旨ヲ開業免狀ニ
裏書シ廳印ヲ捺シテ之ヲ本人ニ下付スヘシ

〔註釋〕農商務卿ニ於テ第十一條ニ據リ全ク獸醫ノ業ヲ營ムコト
ヲ禁止セラレタル者アルトキハ同省ノ令達ニ依リ各自ノ管轄地
方廳ニ於テ直ニ其獸醫ノ開業免狀ヲ本人ヨリ取上ケ之ヲ同

省ニ返納シ又期ヲ限リテ其業ヲ營ムトテ停止セラレタル者アル
ルハ同省ノ令達ニ依リ各自ノ管轄地方廳ニ於テ直ニ獸醫開
業免狀ヲ本人ヨリ差出サシメ之ニ何年月日ヨリ何年月日間營
業停止セラレタル旨ヲ裏書シタル上其廳ノ官印ヲ捺シテ更ニ
本人ニ下付セラル、ナリ

第十三條 農商務卿ハ獸醫業禁止ノ處分ヲ爲シタル後ト雖モ本人ノ
行狀ヲ調査シ特ニ其禁止ヲ解クコトアルヘシ

〔註釋〕農商務卿ニ於テ第十一條第十二條ニ據リ全ク獸醫ノ業ヲ
營ムトテ禁止スル旨處分セラレタル者ト雖モ其後ニ至リ本人
ノ品行端正狀情裕恕スヘキ所アリト調査セラレタル片ハ特別
ノ詮議ヲ以テ其禁止ヲ解カレ更ニ再免許獸醫ノ業ヲ營ムトテ
得セシメラル、トモアルナリ

第十四條 官許ヲ得スシテ獸醫ノ業ヲ爲シタル者ハ五圓以上五拾圓

以下ノ罰金ニ處ス

〔註釋〕此免許規則ニ據リテ獸醫ノ開業免狀ヲ得ス私ニ獸醫ノ業
ヲ營ミタル者アルハ五圓ヨリ五拾圓マテノ罰金ニ處分セラ
ル、ナリ

○獸醫開業試驗規則 明治十八年八月二十二日
太政官第拾七號布達

今般第貳拾八號ヲ以テ獸醫免許規則布告相成候ニ付獸醫開業試驗規
則左ノ通相定メ明治十九年三月一日ヨリ施行ス

第一條 獸醫ヲ開業セントスル者ハ此規則ニ據リ試験ヲ受クヘシ

〔註釋〕凡獸醫ノ業ヲ營ム者ハ農商務卿ヨリ獸醫ノ開業免狀ヲ得
タル者ニ限ル其免狀ヲ得ルニハ獸醫學術諸科ノ試験ヲ受ケサ
ル可カラス而シテ其試験ヲ受クルニハ必此規則ニ據ルナリ

第二條 農商務卿ハ毎年二回獸醫開業ノ試験ヲ舉行スヘシ
但試験ヲ舉行スヘキ地方及ヒ試験期日ハ六箇月前ニ告示スヘシ

〔註釋〕農商務卿ハ毎年二回ツ、獸醫開業ノ試験ヲ舉行セラレ獸醫開業志願者ノ學術ヲ試験セラル其試験ヲ舉行セラル、土地ノ名稱及ヒ試験ノ日限ハ六箇月前ニ全國ニ告示セラル、ナリ

第三條 農商務卿ハ主事者及ヒ試験委員ヲ派遣シ試験一切ノ事ヲ監督整理セシムヘシ

但時宜ニ依リ地方官ニ委任シ其試験ヲ執行セシムルコトアルヘシ

〔註釋〕農商務卿ハ獸醫開業志願者ノ學術試験ニツキ其事務ヲ主幹スル官吏及ヒ學術ヲ試験スル委員ヲ其舉行日限マテニ豫テ定メラレタル地方ニ出張セシメ試験一切ノ事項ヲ監督整理セシメラル、ナリ但時ノ便宜ニ依リテハ之ヲ其管轄地方廳ニ委任セラレ全ク地方廳ヲシテ其試験ヲ執行セシメラル、コトアルナリ

第四條 農商務卿ハ獸醫學術開業試験ヲ舉行スル毎ニ官立及府縣立ノ獸醫學校若シハ農學校ニアリテ獸醫學ヲ專修シタル者又ハ地方ニ於テ名望アル獸醫學者等ヲ選ヒ試験委員ヲ命スルコトアルヘシ

〔註釋〕農商務卿ハ獸醫開業志願者ノ學術試験ヲ舉行セラル、毎ニ官立及ヒ府縣立ノ獸醫學校若シハ農學校即前ノ獸醫免許規則第三條ノ註釋ニ舉ケシ如キ諸學校ニ在リテ專獸醫學ヲ修メタル者カ又ハ各地方ニ於テ名聲アリ人望アル獸醫學者ヲ選ヒ學術ヲ試験スル委員ヲ命セラル、コトアルナリ

第五條 獸醫學術試験科目ハ左ノ如シ

第一 家畜解剖學

第二 同 生理學

第三 同 藥物學

第四 同 內科學

第五 同 外科學

[註釋]獸醫開業志願者ノ學術ヲ試験セラル、科目ハ此ノ如クナリ此諸科ヲ講究スルニツキテハ農務局其他ノ著譯ニ係リ近時世ニ行ハル、獸醫書ノ中參看シテ裨益ヲ得ルモノ甚少ナカラサルナリ尙下ニ掲クル獸醫書目ヲ參看スヘシ

第六條

獸醫學術ノ試験ヲ受ケント欲スル者ハ其願書ニ修學ノ履歷書ヲ副ヘ毎年六月十二月中地方廳ニ差出スヘシ地方廳ハ翌月十五日迄ニ其書類ヲ取纏メ農商務省ニ進達スルモノトス

[註釋]獸醫開業志願者ニシテ此規則ニ據リ學術ノ試験ヲ受ケント欲スルキハ其願書ニ修學ノ履歷書即何年何月ヨリ何學校等ニ入り何學修行何年何月卒業又ハ退校若クハ何年何月ヨリ何某ニ從ヒ何學修行何年何月卒業又ハ退學等詳ニ從前學術ヲ修メタル履歷ヲ記載シタル書面ヲ作りテ副ヘ毎年六月中カ若ク

ハ十二月中ニ自己居住ノ地方廳ニ差出スナリ然ルキハ地方廳ニ於テ其翌月即七月若クハ翌年一月ノ十五日マテニ其書類ヲ取リ纏メ農商務省ニ進達セラル但其試験ハ第一條ニ據リテ農商務省ヨリ全國ニ告示セラレタル試験舉行地ノ内何地ニ就キテ受ケルモ各自ノ便宜ナレモ豫メテ定メテ願書ニ記載シ且必日限マテニ其地ニ着シ宿所氏名ヲ其地方廳ニ届出ツルナリ

第七條

試験問題ハ試験主事者試験委員協議ノ上之ヲ選定シ試験場ニ臨ミ受験人ヲシテ筆答セシムヘシ

但時宜ニヨリ口答セシムルコトアルヘシ

[註釋]獸醫開業志願者ノ學術ヲ試験セラル、問題ハ其試験ノ事務ヲ主幹スル官吏ト學術ヲ試験スル委員ト協議ノ上ニテ選ビ定メラレ試験ノ場所ニ臨ミ其場ニ於テ志願者ニ答案ヲ筆記セシメラル、ナリ但時ノ便宜ニヨリテハ志願者ヲシテ口頭ニテ

答言セシメラル、トモアリ又其場所ノ取締上ニ關係シテ不都合ト認メラル、所爲アル者ハ其事務ヲ主幹スル官吏ヨリ退場セシメラル、トモアルナリ

第八條 試験主事者ハ試験終ルノ後試験委員ト與ニ其成績ヲ評定シ及第シタル者コハ及第證書ヲ與フヘシ

但及第證書コハ主事者試験委員連署スヘシ

〔註釋〕獸醫開業志願者ノ學術試験ニツキテ事務ヲ主幹スル官吏ハ其試験終ハリテ後學術ヲ試験スル委員ト相與ニ試験ノ成果考績ヲ評議シテ決定シ試験ニ及第シタル者コハ及第證書ヲ與ヘラル其及第證書ニハ右ノ官吏ト委員トノ氏名ヲ連署セラル、ナリ

第九條 試験ニ落第シタル者ハ六箇月ヲ經ルニ非レハ再試験ヲ請フコトヲ得ス

〔註釋〕第八條ノ如ク試験ノ成果考績ヲ評議シテ決定セラレタル上落第トナリタル者ハ其試験終ハリテ後更ニ六箇月ヲ經ルコト非サレハ再試験ヲ請フコトヲ得サルナリ

右布達候事

○受驗人心得明治十八年八月三十一日農商務省第拾九號告示

今般太政官第拾七號ヲ以テ獸醫開業試験規則布達相成候ニ付受驗人心得左ノ通相定候條此旨告示候事

第一條 獸醫開業試験ハ當省ヨリ告示シタル試験舉行地ノ中各自便宜ノ地ニ於テ之ヲ受クルコトヲ得ヘシ

第二條 獸醫開業試験ヲ受ケント欲スル者ハ本年第拾七號布達獸醫開業試験規則第六條ニ準據シ其願書ヲ居住ノ地方廳ニ差出スヘシ
第三條 前條許可ノ指令ヲ受ケタル者ハ當省ヨリ告示シタル期限迄ニ試験舉行ノ地ニ着シ宿所氏名ヲ其地方廳ニ届出ヘシ

第四條 試驗場ノ取締上不都合ト認ムヘキ所爲アル者ハ主事者ヨリ退場セシムルコトアルヘシ

願書式

獸醫開業試驗願

住所(寄留ナレハ本籍ヲ併記スヘシ)

族籍

氏

名

年月生

私儀何年何月何地ニ於テ獸醫開業試驗相受度別紙書類相添ヘ此段奉願候也

年月日

右氏名印

戸長氏名印

農商務卿宛

○明治十九年第一回獸醫開業試驗舉行地方及期日 明治十八年八月三十拾八號 告示

來明治十九年第一回獸醫開業試驗舉行ノ地方及其期日左ノ通相定候條志願ノ者ハ本年第拾七號布達ニ準據シ其願書ニ試験ヲ受ケントスル望ノ場所ヲ記載シ本年十二月中居住ノ地方廳ヘ差出スヘシ此旨告示候事

- 三月上旬 東京府下東京 静岡縣下静岡 山口縣下山口 鹿兒島縣下鹿兒島
- 三月中旬 愛知縣下名古屋 廣島縣下廣島 長崎縣下長崎
- 三月下旬 熊本縣下熊本 岡山縣下岡山
- 四月上旬 大阪府下大阪 福岡縣下福岡 高知縣下高知
- 四月中旬 鳥取縣下鳥取 愛媛縣下松山 大分縣下大分
- 四月下旬 島根縣下松江
- 五月上旬 福島縣下福島 函館縣下函館 沖繩縣下那覇

五月中旬 長野縣下長野 山形縣下山形 札幌縣下札幌
 五月下旬 新潟縣下新潟 宮城縣下仙臺 根室縣下根室
 六月上旬 富山縣下富山 巖手縣下盛岡
 六月中旬 福井縣下福井 秋田縣下久保田
 六月下旬 青森縣下青森

○疫牛處分假條例 明治九年二月二十九日
 內務省乙第貳拾號達

傳染牛疫豫防ノ儀去明治四辛未年六月七日太政官公布ノ趣モ有之候處近年内地ニ流行シ既ニ明治六年ヨリ七年ニ至ル迄牛疫ニ罹リ斃ル、モノ全國四萬貳千餘頭ニ及ヒ農業ヲ妨碍シ牧畜ノ進路ヲ遮斷スル等巨害枚擧スルニ暇アラヌ元來右傳染牛疫ノ儀ハ歐洲諸邦ニ於テ屢々流行シ慘毒無量結局難治ノ症ニシテ甚シキハ殆ト一國ノ健牛ヲ蕩尽スルニ立至リ候儀モ往々有之候處未タ彼ノ地ニ於テモ治療ノ方法不相立到底之レヲ左右スルモ徒費徒勞ニ屬シ還テ人手ヨリ他ニ傳フ

ルノ實害アルニ付速カニ患牛ヲ撲殺シ傳染ノ原根ヲ斷テ健牛ヲ豫防スルヲ以テ古今良醫ノ定論トスル處ニ付右牛疫ノ徵候有之節ハ斷然牛主共ニ於テ撲殺スルハ當然ノ事ニ候得共一時姑息ノ情ヨリシテ因循時機ヲ失ヒ終ニ疫毒蔓延候テハ不容易儀ニ付特別ノ詮議ヲ以テ賠償撲殺法取設候條別紙疫牛處分假條例ニ照準以來各府縣ニ於テ精密其徵候ヲ探偵シ牛疫ノ疑アラハ牛價ヲ其主ニ償與シ速ニ之レヲ撲殺シ疫毒ノ源根ヲ滅却候様取計可申尤照會ノ爲メ牛病新書並疫牛容體書下ケ渡候條篤ト照準夫々處分方厚注意尙管内人民ニモ告諭可致此旨相達候事

第一條 人民飼立ノ牛疫病アルキハ其牛主ニ於テハ兼テ管轄廳ヨリ告示スル所ノ醫ニ請フテ診察セシメ若シ牛疫ノ徵候アラハ直ニ之ヲ區戶長ニ届出區戶長ヨリハ速ニ其旨管轄廳ニ届出ヘシ但醫員懸隔ノ地等ニ於テ之ヲ迎フルノ際既ニ牛疫ノ徵候アルキ

ハ直ニ區戶長ニ届出ツヘシ

第二條 管轄廳ニ於テハ區戶長ヨリノ具狀ニヨリ速ニ官員ヲ派出セシメ検査ノ上疑アルモノハ病ノ輕重ヲ不問直ニ之ヲ撲殺シ其他ハ專ラ豫防法ヲ行フヘシ

第三條 牛疫感染ノ牛ヲ撲殺スルキハ相當ノ代價ヲ其主ニ下渡スヘシ故ニ所有主ニ於テ之ヲ拒ムヘカラス

但牛價ハ其品位ニ依リ相當支給スヘシト雖必ス一頭ニ付金三拾圓ヲ超ユヘカラス

第四條 牛疫發見セハ直ニ管内ニ布達シ及勸業寮並接近ノ地方廳ヘモ之ヲ通知スヘシ

第五條 牛疫發見シタルトハ其場所ヨリ凡方二里以内ノ地ヲ限リ直ニ道筋ニ標札ヲ建テ病牛ハ勿論健牛ト雖右限外ニ出ルコトヲ禁シ又他ヨリ限内ニ入ルコトヲ禁スヘシ假令病根全ク滅却ノ後タリトモ尙

三ヶ月ヲ經サレハ其出入ヲ許スヘカラス

但四方十里以内畜牛無之場ヘ往復或ハ移轉スルハ此限ニアラス

第六條 牛疫起發ノ地ヘハ直ニ巡查ヲ派出シ該病ニ係ル諸般ノ取締ヲ爲サシムヘシ

第七條 牛病新書及疫牛容体書一府縣ニ付二十部宛下渡スヘキニ付各管内適宜ノ地ニ於テ相當ノ醫生ヲ撰ミ右書類ヲ下渡シ豫メ講習セシメ牛病ノ診斷ヲサシムヘシ且該醫ノ住所姓名ハ管内ヘ告示ス可シ

第八條 牛主ヘ償付セル金額ハ伺コ不及豫備金ノ内ヲ以速ニ施行シ醫員ノ診斷書及牛主姓名頭數金額等詳細取調書相添其時々當省ヘ届出ヘシ

但金員受取方ノ儀ハ三ヶ月分取束子大藏省ヘ申立ヘシ

第九條 疫病ニ斃レ或ハ撲殺シタル牛ノ遺骸ハ辛未年ノ公布ニ照準

シ燒棄スルハ勿論ナリト雖其地方ノ便適ニヨリ一文二尺ノ地下ニ
埋没スルモ妨ナシトス

茲ニ紀元千八百六十五年英國ニ於テ牛疫流行ノ際同國家畜醫ノ中最
モ卓越ナル博士シモンヅ氏ヲシテ書セシムル所ノ左ノ説ヲ以テ議員
之ヲ公論トセシナリ

牛大ニ沈鬱シテ活潑ナラス食ヲ反芻スルヲ止メ頻リニ戰慄シ行歩
蹣跚タリ寒甚シ呼吸促迫シテ頭ヲ低レ眼球紅色ヲ潮シテ涕液ヲ流
セリ鼻孔ヨリ粘液ヲ生シ内腎及上顎ニ於テ生色ナルモノヲ基布レ
テ且ツ下痢アリ

ポーランド國ノ學士セーマン氏ノ説左ノ如シ

牛ノ食物缺乏反芻ヲ止メ鬱悶シテ口中並ニ小牙ヨリ粘液ヲ生シ且
小瘡ヲ發シ臭氣ヲ放ナテ爾餘眼鼻ヨリ粘液ヲ泄シ次テ臭氣アル下
痢ヲ下シ咳嗽シ漸次衰瘦シテ偶麟斷シ頭ヲ一方ニ屈メテ斃死ス

博士レーヤド氏カ疫病傳染ノ性ニツイテ著ハス所ノ書中ニ述ヘタル
左ノ説ハ千七百五十七年ニ公告セリ

此傳染疫ノ初徴ハ食慾減少シ頭ヲ伸シ嚙下スルニ困難耳ニ痒ヲ覺
ユル如ク搖シテ又垂レリ眼暗濁ナリ怠慢ニシテ運動ヲ好マズ爾後
全ク食欲ヲ絶ス眼鼻ヨリ膿様ノ液ヲ泄シ常ニ下痢シ上顎及口脣ニ
於テ結膿シ多ク夕時ニ在テ呻吟シテ横臥セリ

因テ今茲ニ當牧羊場第一區ノ兩國沖ニ於テ斃牛ノ徵候如何アリシヲ
陳ス可シ

牛ノ食欲欲乏シ反芻ヲ止メ頭及ヒ耳ヲ垂レ間歇厥冷戰慄シ下痢ヲ
生シ咳嗽シ呼吸促迫ス眼鼻ヨリ粘液ヲ泄シ初メ眼ヨリ出タル液ハ
全ク稀薄ナレトモ病長スルニ及テ次第ニ稠厚トナリ遂ニ膿狀ニ變セ
リ

眼球赤色ヲ潮シ鼻孔ヨリ粘液ヲ生シ臭氣ヲ放チ苦臭アル大便ヲ下ス

頻リニ齟齬シ病長スルニ及テ呼吸益窘迫セリ病牛ノ内前ニ記載スル
 學士レーヤド氏カ述ル説ノ如ク頭ヲ伸セシ徵候アルヲ注目セリ而シ
 テ專ラ博士シモンツ氏カ説ノ如ク行歩踉蹌タリ亦咳嗽齟齬スルヲボ
 ーランド國ノ學士カ説ト同一タリ如斯全ク病期ヲ終テ熱ノ下級ニ在
 ルヲ徵ス

○傳染牛疫豫防法並斃死後處置 明治九年三月七日
 內務省乙第貳拾四號達

今般傳染牛疫處分條例相達候處尙別紙ノ通豫防法並斃死後處置相達
 候條篤ト管内人民ニ諭達可致此旨相達候事

- 一 若シ一戸ニ傳染牛疫ノ徵候發顯スルキハ疫牛處分假條例ヲ遵奉シ
 之ヲ撲殺シテ其死體ハ速ニ壹丈貳尺ノ地下ニ埋沒スルガ或ハ燒棄
 スルハ勿論傳染病ニ紛ハシキモノト雖直様其由ヲ近隣ニ知ラセ健
 牛ヲ所持スルモノト互ニ往來出入ス可カラス
- 一 一戸數頭ノ牛ヲ畜養スルモノハ若シ壹頭ノ牛々疫病ノ徵候アルキ

ハ直ニ健牛ヲ他ノ牛類無之地ニ引移スヘシ尤疫牛處分假條例ノ通
 其場所ヨリ凡方二里以內ノ地ヲ限リトス

- 一 一地方ニ傳染病發起ノ聞エアレハ一層注意廐舎ヲ清淨ニシ寐藁ナ
 ト度々取替濕氣ヲ乾カシ空氣ノ流通ヲ能クスルヲ怠ルヘカラス
 且左ノ藥劑ヲ時々廐內ニ散布スヘシ
- 一 石炭酸水 石炭酸貳勺位 水壹升五合
- 又ハ
- 一 鹽酸カルキ水 鹽酸カルキ壹合位 水壹升五合
- 右ノ藥品ニ乏シキ地ニテハ生石灰ヲ散布スヘシ

- 一 飼料ハ和カニシテ消化シ易キ物ヲ與フヘシ
- 但燕麥粉ノ得易キ地ニテハ常食ニ與フルヲ最良トス
- 一 干草ハ鹽水ヲ振り掛ケ潤シ與フヘシ
- 但多分ノ青草ヲ與フルハ下痢ヲ醸ス恐アレハ加減スヘシ

斃死後處置

- 一 傳染病ト覺敷キ症コテ斃ル、モノアラハ廐舎ノ内外ヲ能ク洗ヒ硫黄壹斤ヲ薰シ石炭酸水ヲ散布シテ臭氣ヲ去ラシムヘシ尤モ病牛ノ糞尿其外治療ニ用ヒタル一切ノ物品ハ深ク土中へ埋ムルカ又ハ硫黄ヲ散布シテ燒キ捨ツヘシ
 - 一 病牛ヲ取扱ヒタル人ハ衣服ヲ取換ヘ身体ヲ清淨ニシ一周間ヲ經サレハ健牛ニ近ツクヘカラス
 - 一 總テ斃牛ヲ取扱ヒタル場所ヘハ石炭酸水ヲ散布スヘシ 生石灰ニテモヨシ
 - 一 傳染病牛斃死ノ廐舎ヘハ六ヶ月ヲ經サレハ健牛ヲ繫クヘカラス
- 駒場農學校規則 明治十八年六月改正

目次

第一章 編制 ○第二章 入學及諸書式 ○第三章 退學 ○第四章 試業證書及學位 ○第五章 研究科 ○第六章 學年及休業 ○第七章 賞罰 ○第八章

學生費用及貸與品 ○第九章 諸學科課程

第一章 編制

第一條 本校ハ農學農藝化學及獸醫學ノ三專門學科ヲ教授スル所ナ

リ 但獸醫學專門學科ハ芝區三田四國町ニ置ク

第二條 豫備學科ヲ置キ專門學科ニ入ルノ階梯トナス

第三條 各學科ノ課程ヲ三周年トシ之ヲ六學期ニ分ツ

第四條 各學科ヲ教授スルニ邦語並ニ英語ヲ以テス

第五條 獸醫學專門學科構内ニ獸醫學別科ヲ置キ邦語ヲ以テ獸醫學ヲ教授ス

但該科規則ハ別ニ之ヲ設ク

第六條 獸醫學專門學科構内ニ家畜病院ヲ置キ廣ク依頼ニ應シ病畜ヲ治療ス

但依頼人心得書ハ別ニ之ヲ設ク

第二章 入學及諸書式

第一條 入學ノ期ハ每學年ノ始メ(四月一日)一回トシ時宜ニ由リ第二學期ノ始メ(十一月一日)ニ於テ入學ヲ許スコトアルヘシ

第二條 入學ヲ願フ者ハ左ノ資格ヲ有スル者ニ限ル

第一 齡十六年以上二十五年以下ノ者

第二 品行方正體格強健ノ者

第三 在學中家事ニ係累ナキ者

第四 一年間徵兵ニ相當セサル者

第三條 第七條入學試驗課目甲號ニ及第スル者ハ豫備學科第一學級ニ入學ヲ許シ同乙號ニ及第スル者ハ同二年級ニ入學ヲ許ス

第四條 豫備學科第二學級第二學期以上ニ入學ヲ許ス者ハ前學期以下修學スヘキ必需ノ諸課目ヲ試驗シ合格者ニ限ル然レトモ他ノ學

校ニ於テ嘗テ修得セシ課目ニ限リ本校其證書ヲ是認スルトキハ更ニ試驗ヲ要セス

但入學ハ學期ノ初メ其級學生缺員アルニ非サレハ之ヲ許サス

第五條 専門學科ニ入學ヲ許ス者ハ豫備學科卒業ノ者及ヒ之ト同一ノ學力ヲ有スル者ニ限ル

第六條 本校學生ニシテ一旦退學セシモノ一學期ヲ經テ後再ヒ入學ヲ出願スルトキハ新募生徒ト同ク更ニ試驗ヲ行フ然レトモ本校一學期以上ノ在學證アルモノハ更ニ試驗ヲ要セスシテ相當ノ級ニ入學ヲ許スコトアルヘシ

但犯則退學ノ者ハ此限ニアラス

第七條 入學試驗課目左ノ如シ

試驗課目

甲號

- 第一 和漢學 作文(片假名交リ文)漢文和解
- 第二 英學 音讀、書取、和譯
- 第三 算術 加減乘除ヨリ開平開立マテ
- 第四 地理學 萬國地理
- 第五 體格

乙號

- 第一 和漢學 作文(片假名交リ文)漢文和解
- 第二 英語學 作文、書取、釋解、對話
- 第三 反譯 英文和譯、和文英譯
- 第四 代數學 全体
- 第五 幾何學 平面、立体
- 第六 物理學 大意
- 第七 化學 無機

第八 體格

第八條 入學志願ノ者ハ第一號及第二號書式ニ倣ヒ入學願書並ニ學業履歷書ヲ本校學務掛ヘ差出スヘシ

第九條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ第三號及ヒ第四號書式ニ倣ヒ本人誓書並ニ正副保證人連署ノ保證書ヲ差出スヘシ

第十條 正副保證人ハ丁年以上ノ男子ニシテ東京府下ニ住シ一家計ヲ立テ其身ヲ委托スルニ足ルヘキモノニ限ル

第十一條 正副保證人ノ中東京府外ヘ轉住シ若シハ死亡スルトキハ更ニ保證人ヲ定メ第四號書式ニ準シ證書ヲ差出シ又旅行スルトキハ之カ代人ヲ立ツヘシ

但宿所移轉或ハ改印等ノ事アルトキハ速ニ其旨届出ツヘシ

第十二條 學生ハ総テ學寮ニ寄宿セシム

但夏冬兩休業中ハ在校ヲ許サス

第十三條 入學願書學業履歷書誓書及保證書式左ノ如シ

第一號

入學願書式 用紙美濃紙ニツ折二通

入學願

私儀農藝化學執心ニ付今般豫備學科何年級へ入學修業仕度志願ニ候
條御試驗被成下度仍テ學業履歷書相添此段奉願候也

東京府下宿所

某府縣籍族

戸主ニアラサレハ
某何男或ハ何々

年月日

苗字名印

幾年幾月

駒場農學校長某殿

第二號

學業履歷書式 用紙前同斷一通

學業履歷書

一從某年某月至某年某月幾年幾月間某地官公立某學校ニ於テ教即何
某ニ就キ何學修業用書何々

以上

年月日

苗字名印

第三號

誓書式 用紙前同斷證券印紙貼用一通

誓書

私儀今般入校修業御許可ニ付テハ在校中諸規則堅ク遵守仕卒業ニ
至ル迄猥リニ退學仕間敷候仍テ誓書如此候也
某府縣籍族 戸主ニアラサレハ
某何男或ハ何々

年月日

苗字名印

駒場農學校長某殿

第四號

保證書式 前同斷

保證書

某府縣籍族 戶主ニアラサレハ
某何男或ハ何々

苗字名

右之者今般入校修業御許可ニ付テハ御規則之通堅ク相守ラセ卒業
前猥リニ退學致間敷候且又本人在校中ニ係ル一切ノ事件ハ私共引
受可申候仍テ保證仕候也

宿所

籍族

年月日

副保證人

苗字名印

宿所

籍族

保證人

苗字名印

駒場農學校長某殿

前書保證人何某ハ丁年以上ニシテ本區内ニ住シ一家計ヲ立ツル者
ニ相違無之候也

何區 長印

前書副保證人何某ハ丁年以上ニシテ本區内ニ住シ一家計ヲ立ツル

何區 長印

者ニ相違無之候也

第三章 退學

第一條 學生若シ重病ニ罹リ本校醫員ノ診斷ヲ以テ學業ヲ修メ難キ
者ト認ムルトキハ退學ヲ命ス

第三條 學生若シ諸規則ニ悖戻シ或ハ學校長教師等ノ説諭ニ強抗シ若クハ怠惰不品行ニシテ修學ノ目途ナキモノト認ムルトキハ退學ヲ命ス

第三條 學生止ムヲ得サル事故ニ由リ退學セント欲スル者正副保證人連署ノ上出願スルトキハ詮議ノ上之ヲ許スコトアルヘシ

第四條 第四章第十三條ニ當ル者ハ退學ヲ命スルコトアルヘシ

第五條 第四章第十四條ニ當ル者再ヒ落第スルトキハ退學ヲ命ス

第四章 試業證書及學位

第一條 試業ヲ分ツテ三トナス

第一 臨時試験

第二 定期試験

第三 卒業試験

第二條 臨時試験ハ每學期中ニ於テ臨時ニ之ヲ行フ者トス

但各専門學科第三年第二學期ニ於テハ之ヲ要セス

第三條 定期試験ハ每學期ノ終リニ於テ之ヲ行フモノトス

但各専門學科第三年第二學期ノ終リニ於テハ之ヲ要セス

第四條 卒業試験ハ各専門學科第三年第二學期ノ終リニ於テ之ヲ行フモノトス

但該試験ハ各専門學科主眼ノ學課ニ限ル而シテ問題ハ其教師之ヲ撰定シ學校長ノ認可ヲ得ルモノトス

第五條 凡テ試験ハ對策應問ノ二法ヲ使用シ而シテ教師ハ其成績ヲ按シ之ニ評點ヲ附ス

第六條 凡テ試験ノ評點數ハ各課目共一百點ヲ以テ最高點トナス

第七條 定期試験各課目評點平均數ハ定期試験評點數コニテ乘シ之ニ臨時試験ノ評點數ヲ合算シ而シテ臨時試験ノ回數ヘニテ加ヘ其和ヲ以テ除シテ定ムルモノトス

和ヲ以テ除シテ定ムルモノトス

第八條 定期試験諸課目評點平均數ハ各課目評點平均數ヲ合算シ其課數ヲ以テ除シテ定ムルモノトス

第九條 卒業試験評點平均數ハ諸課目評點平均數ト各定期試験評點平均數ニテ乘シタルモノトテ合算シテ三分シテ定ムルモノトス

第十條 凡テ試験ニ出席スルモノハ之ニ零點ヲ附ス

但學校長及教師ノ意見ヲ以テ更ニ試験スルコトアルヘシ

第十一條 第七章第三條ニ準シ罰點ヲ科セラレタル者ハ定期試験及ヒ卒業試験諸課目評點平均數ヨリ之ヲ減却ス

第十二條 講習修業及ヒ試験ノ際不埒ノ舉行アル者ハ教師ノ意ヲ以テ評點ヲ少減スルコトアルヘシ

但之ヲ爲スニ於テハ其事由ヲ學校長ニ開申スヘシ

第十三條 定期試験諸課目評點平均數六十點ニ至ラサルモノハ原級

ニ留メ或ハ降級セシム

但諸課目評點平均數六十點ヲ得ルト雖ニ課目以上其數ニ至ラサルモノハ本文ニ準シ原級ニ留メ或ハ降級セシム

第十四條 卒業試験評點平均數七十點ニ至ラサルモノ及ヒ其數ヲ得ルト雖該試験一課目以上六十點ニ至ラサルモノハ之ヲ落第トシ原級ニ留メテ再修ノ後更ニ試験スルモノトス

第十五條 各専門學科卒業生ニハ學士或ハ得業士ノ稱ヲ與フルモノトス

第十六條 卒業試験ニ及第シ其評點平均數八十五點以上ヲ得ル者ハ之ニ學士ノ稱ヲ與ヘ其數ヲ下ル者ハ之ニ得業士ノ稱ヲ與フル者トス

但學士ノ稱ハ評點平均數八十五點ニ至ルト雖卒業試験一課目以上其數ヲ下ルモノハ之ヲ與ヘス

第十七條 得業士ニシテ更ニ學士ノ稱ヲ得ント欲スルモノ學業研究ノ上試験ヲ出願スルトキハ詮議ノ上之ヲ許シ卒業試験ト同一ニ行フコトアルヘシ

但該試験ノ評點平均數ハ諸課目評點平均數ト卒業試験評點平均數トヲ合算シ之ヲ二分シテ定ムルモノトシ其他都テ卒業試験ニ同シ

第五章 研究科

第一條 本校ニ於テ卒業セシ者猶深ク既修ノ學課目ヲ研究セントスルトキハ願ニ依リ之ヲ許可ス

但本校ノ都合ニヨリ或ハ之ヲ許サ、ルコトアルヘシ

第二條 研究期限ハ一ケ年トシ凡テ通學スルモノトス

但授業科ヲ要セズ

第三條 研究科ニ入ル者ハ就學中學生同様タルヘシ

但學資ハ自辨トス

第四條 研究セル學課目ハ其成果ヲ論文ニ作り之ヲ學校長ニ差出ス

第六章 學年及休業

第一條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル學年ヲ分ツテ二學期トス第一學期ハ四月一日ヨリ十月三十一日ニ至リ第二學期ハ十一月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル

第二條 夏期休業ハ七月十一日ヨリ九月十日ニ至リ冬期休業ハ十二月二十五日ヨリ翌年一月十日ニ至ル定期試験ノ後ハ一週日間ヲ休業トス

第三條 學年中日曜日及ヒ左ノ大祀令節等ヲ休業トス

神武天皇祭

四月三日

秋季皇靈祭

神嘗祭

十月十七日

天長節

十一月三日

新嘗祭

十一月廿三日

立校紀念日

一月二十四日

孝明天皇祭

一月三十日

紀元節

二月十一日

春季皇靈祭

第四條

授業時間ハ四月一日ヨリ十月三十一日迄午前八時ヨリ正午十二時ニ至リ午後一時ヨリ同三時ニ至ル十一月一日ヨリ翌年三月三十一日マテ午前九時ヨリ正午十二時ニ至リ午後一時ヨリ同四時ニ至ル

但時宜ニ由リ時間ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第七章 賞罰

第一條

定期試験ノ際學業超衆平素品行端正ナル者ハ之ヲ賞スル爲メ一學期間ノ學資ヲ給シ或ハ書籍ヲ與フ

但學資ハ毎月之ヲ給シ其學期中退學スルトキハ直ニ之ヲ止ム

第二條

學資ハ一ヶ月金六圓以内トシ書籍ハ金拾圓以内ニ値スルモ

ノトス

第三條

學生諸規則ニ背戾シ或ハ怠惰不品行ノ者ハ其事ノ大小輕重ニ由リ一週日間以上六週日間以下ノ禁足ニ處シ三十點以内ノ罰點ヲ附科ス

第八章 學生費用及貸與品

第一條

學生ハ受業料及ヒ食料ヲ上納セザム

第二條

受業料ハ一學期金四圓トシ每學期ノ始メ二十日以内ニ該一學期分ヲ會計員ヘ納付スヘシ而シテ納付後缺課シ又ハ退學スルモ既納ノ分ハ返付セサルモノトス

第三條

學生若シ貧困ニシテ受業料ヲ納ムル能ハサル者ハ願ニ依リ詮議ノ上其半額或ハ四分三若クハ全額ヲ免除スルコトアルヘシ

第四條

食料ハ一ヶ月大約金三圓五拾錢トシ毎月初メ三日以内ニ該一ヶ月分ヲ會計員ヘ納付スヘシ而シテ毎月末ニ於テ之ヲ精算シ過

剩アレハ之ヲ返付シ不足アレハ之ヲ追徴ス

第五條 學生疾病ノ際醫藥ハ凡テ自辨タリト雖學寮病室ニ於テ治療スルモノハ之ヲ給ス

第六條 學生所用ノ机燈椅子寢具食什等ハ之ヲ貸付シ若シ破損スルトキハ相當ノ修覆料ヲ辨償セシム

第七條 學生ニハ校章アル帽子ヲ貸付ス故ニ在學中ハ必ス之ヲ用フヘシ

第九章 諸學科課程

豫備學科

第一學期 第二學期

幾何學○代數學○漢文學○英語學○無機化學○步兵操練

第二學期 第一學期

代數學○漢文學○英語學○無機化學○有機化學○物理學○植物學

人身生理○步兵操練

全 第二學期

漢文學○英語學○畫學○物理學○植物學○動物學○農用理財學○有機化學○步兵操練

第三學期 第一學期

英語學○物理學○植物學○動物學○農用理財學○有機化學○定性分析○圖學○步兵操練

全 第二學期

英語學○物理學○植物學○動物學○農用理財學○有機化學○定性分析○圖學○羅甸學○步兵操練

農學科

第一學期

農學○氣象學○礦物學○重學○三角法測量及製圖○植物組織

學

五十二

第二年級

農學并實習○三角法測量及製圖○地理學○昆蟲學○獸醫學大意○顯微鏡用法

第三年級

農學并應用試驗○農用記簿法○農場管理法

農藝化學科

第一年級

農藝化學○定性分析(第一學期)○定量分析(第二學期)○礦物學○氣象學○農學○植物組織學

第二年級

農藝化學并應用試驗○定量分析○農學○地質學○顯微鏡用法○農產物製造法

第三年級

農藝化學并應用試驗○定量分析○農產物製造法

獸醫學科

第一年級

比較解剖學及實習○生理學○藥物學及處方實習○動物組織學及顯微鏡實習○蹄鐵學及實習

第二年級

比較解剖學及實習○外科手術學及實習○原病學通論○家畜飼養法及食物論○產科學○原病學各論○外科學○畜病院實習

第三年級

畜病院實習○病體解剖學及實習○馬體檢查法○獸醫警察學及動物疫論○寄生蟲學○家畜管理法及蕃殖法○獸醫學歷史

○駒場農學校獸醫學別科規則 明治十八年六月改正

五十三

第一章 編制 ○第二章 入學及諸書式 ○第三章 退學 ○第四章 試業及證書 ○第五章 學年及休業 ○第六章 賞罰 ○第七章 學科課程

第一章 編制

第一條 當科ハ邦語ヲ以テ獸醫學ヲ教授スル所ナリ

第二條 生徒修業年限ヲ三周年トシ之ヲ六學期ニ分ツ

第三條 生徒在學中ノ費用ハ都テ自辨タルヘシ

第二章 入學及諸書式

第一條 入學ノ期ハ每學年ノ始メ(四月一日)一回トシ時宜ニ由リ第二學期ノ始メ(十一月一日)ニ於テ入學ヲ許スコトアルヘシ

第二條 入學ヲ願フ者ハ左ノ資格ヲ有スル者ニ限ル

第一 齡十七年以上二十八年以下ノ者

第二 品行方正体格強健ノ者

第三 在學中家事ニ係累ナキ者

第四 一年間徵兵ニ相當セサル者

第三條 二學期以上ノ級ヘ入學ヲ許ス者ハ前學期以下修學スヘキ必需ノ諸課目ヲ試験シ合格者ニ限ル然レトモ他ノ學校ニ於テ嘗テ修得セシ課目ニ限リ學校長其證書ヲ是認スルトキハ更ニ試験ヲ要セス

但入學ハ學期ノ初メ其級生徒ノ缺員アルコト非サレハ之ヲ許サス
第四條 當科生徒ニシテ一旦退學セシモノ一學期ヲ經テ後再ヒ入學ヲ出願スルトキハ新募生徒ト同ク更ニ試験ヲ行フ然レトモ當科一學期以上在學ノ證アル者ハ更ニ試験ヲ要セスシテ相當ノ級ヘ入學ヲ許スコトアルヘシ

但犯則退學ノ者ハ此限ニアラス

第五條 入學志願ノ者ハ第一號及ヒ第二號書式ニ倣ヒ願書並學業履

歷書ヲ當科へ差出スヘシ

第六條 入學志願ノ者左ノ試験課目ニ及第スルトキハ入學ヲ許ス

第一 和漢學 作文(片假名交リ文)漢文和解

第二 算術 加減乗除ヨリ分數比例マテ

第三 體格

第七條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ第三號及ヒ第四號書式ニ倣ヒ本人

誓書並ニ保證人保證書ヲ差出スヘシ

第八條 保證人ハ丁年以上ノ男子ニシテ東京府下ニ住シ一家計ヲ立

テ其身ヲ委托スルニ足ルヘキ者ニ限ル

第九條 保證人東京府外ニ轉住シ若シクハ死亡スルトキハ更ニ保證

人ヲ定メ第四號書式ニ準シ證書ヲ差出シ旅行スルトキハ之カ代人

ヲ立ツヘシ

但宿所移轉或ハ改印等ノ事アレハ速カニ其旨届出ツヘシ

第十條 入學願書學業履歷書誓書及ヒ保證書式左ノ如シ

第一號

入學願書式 用紙美濃紙二ツ折二通

入學願

私儀獸醫學執心ニ付今般獸醫學別科へ入學修業仕度候條御試験被
成下度仍テ學業履歷書相添此段奉願候也

東京府下宿所

某府縣籍族 戶主ニアラサレハ
某何男或ハ何々

年月日

苗字名印

幾年幾月

駒場農學校長某殿

第二號

學業履歷書式 用紙前同斷一通

學業履歷書

一從某年某月至某年某月幾年幾月間某地官公私立某學校ニ於テ教師何
某ニ就キ何學修業用書何々

以上

年月日

苗字名印

第三號

誓書式 用紙前同斷證券印紙貼用一通

誓書

私儀今般入學修業御許可ニ付テハ諸規則堅ク遵守仕卒業ニ至ル迄
猥リニ退學仕間敷候仍テ誓書如此候也

某府縣籍族 戶主ニアラサレハ
某何男或ハ何々

年月日

苗字名印

駒場農學校長某殿

第四號

保證書式 前同斷

保證書

某府縣籍族 戶主ニアラサレハ
某何男或ハ何々

苗字名

右之者今般入學修業御許可ニ付テハ御規則之通堅ク相守ラセ卒業
前猥リニ退學爲致間敷候且又本人在學中ニ係ル一切ノ事件ハ私引
受可申候仍テ保證仕候也

籍族

年月日

保證人

苗字名印

駒場農學校長某殿

前書保證人何某ハ丁年以上ニシテ本區内ニ住シ一家計ヲ立ツル者ニ相違無之候也

何區
村長某印

第三章 退學

第一條 生徒若シ重病ニ罹リ業ヲ修メ難キ者ハ退學ヲ命ス

第二條 生徒若シ諸規則ニ悖戻シ校長教員等ノ説諭ニ強抗シ若シハ怠惰不品行ニシテ修業ノ前途ナキ者ハ退學ヲ命ス

第三條 生徒已ムテ得サル事故ニ由リ退學セント欲スル者保證人連署ノ上出願スルトキハ詮議ノ上之ヲ許スコトアルヘシ

第四條 第四章第十一條ニ當ル者ハ退學ヲ命スルコトアルヘシ

第四章 試業及證書

第一條 試業ヲ分ツテ二トナス

第一 臨時試験

第二 定期試験

第二條 臨時試験ハ每學期中ニ於テ臨時ニ之ヲ行フモノトス

第三條 定期試験ハ每學期ノ終リニ於テ之ヲ行フモノトス

第四條 凡テ試験ハ對策應問ノ二法ヲ使用シ而シテ教員ハ其成績ヲ按シ之ニ評點ヲ附ス

第五條 凡テ試験ノ評點數ハ各課目共一百點ヲ以テ最高點トナス

第六條 定期試験各課目評點平均數ハ臨時試験評點平均數ト定期試験評點數ノ和ヲ二分シ定ムルモノトス

第七條 定期試験諸課目評點平均數ハ各課目評點平均數ヲ合算シ其課數ヲ以テ除シテ定ムルモノトス

第八條 凡テ試験ニ缺席スルモノハ之ニ零點ヲ附ス

但校長及ヒ教員ノ意見ヲ以テ更ニ試験スルコトアルヘシ

第九條 第六章第二條ニ準シ罰點ヲ科セラレタルモノハ定期試験諸

課目評點平均數ヨリ之ヲ減却ス

第十條 講習修業及ヒ試験ノ際不埒ノ舉行アルモノハ教員ノ意見ヲ以テ評點ヲ減却スルコトアルヘシ

但之ヲ爲スニ於テハ其事由ヲ校長ニ開申スヘシ

第十一條 定期試験諸課目評點平均數五十點ニ至ラサルモノハ原級ニ留メ或ハ降級セシム

但諸課目評點平均數五十點ヲ得ルト雖ニ課目以上其數ニ至ラサル者ハ本文ニ準シ原級ニ留メ或ハ降級セシム

第十二條 當科ノ課程ヲ卒ヘ試験ヲ完フスル者ハ之ニ卒業證書ヲ與フルモノトス

第五章 學年及休業

第一條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル學年ヲ分ツテ二學期トス第一學期ハ四月一日ヨリ十月三十一日ニ至リ第二

學期ハ十一月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル

第二條 夏期休業ハ七月十一日ヨリ九月十日ニ至リ冬期休業ハ十二月二十五日ヨリ翌年一月十日ニ至ル定期試験ノ後ハ一週日間ヲ休業トス

第三條 日曜日及ヒ左ノ大祀令節等ヲ休業トス

神武天皇祭 四月三日 秋季皇靈祭

神嘗祭 十月十七日 天長節 十一月三日

新嘗祭 十一月廿三日 立校紀念日 一月二十四日

孝明天皇祭 一月三十日 紀元節 二月十一日

春季皇靈祭

第四條 授業時間ハ四月一日ヨリ十月三十一日マテ午前八時ヨリ正午十二時ニ至リ午後一時ヨリ全三時ニ至ル十一月一日ヨリ翌年三月三十一日マテ午前九時ヨリ正午十二時ニ至リ午後一時ヨリ全四

時ニ至ル

但時宜ニ由リ時間ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第六章 賞罰

第一條 平素能ク勉勵シ學業超衆兼テ品行端正ノ者ハ每學期ノ終リニ於テ金五圓以內ニ値スル賞品ヲ與フ

第二條 諸規則ニ背戾シ或ハ怠惰不品行ノ者ハ其事ノ大小輕重ニ由リ三十點以內ノ罰點ヲ科ス

第七章 學科課程

第一年級

第一學期

物理學○化學○動物學○植物學○英學○解剖學○步兵操練

第二學期

物理學○化學○動物學○植物學○英學○解剖學○生理學○步

兵操練

第二年級

第一學期

化學○英學○生理學○組織學及顯微鏡用法○蹄鐵學及實習○步兵操練

第二學期

解剖學○藥物學及調劑法○外科手術論及實習○原病學○畜病院實習○步兵操練

第三年級

第一學期

原病學○外科學○產科學○獸醫警察法動物疫論○畜病院實習○步兵操練

第二學期

解剖學○外科學○獸醫警察法及動物疫論○寄生蟲學○馬體檢
查法○家畜管理法○畜病院實習○步兵操練

○獸醫書目

獸醫ノ書固ヨリ少ナカラスト雖モ其說陳套或ハ資ルニ可ナラサルモ
ノアリ因リテ今編者カ其世ニ行ハ、ルヲ知ルモノ、名ノミヲ掲ケテ
参看ニ便ス

書名	著譯名	壹部冊數	壹部定價
獸醫全書	勸農局坪井信良	貳冊	金五圓
獸類治療小篇	陸軍文庫	壹冊	金五拾錢
牧畜必携	荒井宗懿	同	金四拾五錢
畜疫治法	宗我彦磨	同	金拾貳錢五厘
家畜病理學	村崎常治	同	金四拾五錢
獸類藥物學	陸軍文庫、太田雄寧	同	金拾八錢
獸類藥法書	同	貳冊	金四拾錢
獸醫藥方錄	農務局、西川勝藏	壹冊	金五拾錢

獸醫藥物書	今泉六郎	同	金三拾六錢
獸類內科全集	大澤弘毅	同	金貳拾五錢
獸醫外科書	今泉六郎	同	金三拾六錢
獸醫產科書	大澤弘毅	壹冊	金四拾錢
牛病通論	勸農局、綿織精之進	貳冊	假綴金貳圓
牛病可治	志賀雷山	壹冊	本綴金貳圓貳拾五錢
牛病新書	柏原學而	三冊	金六錢
流行牛病豫防說	同	壹冊	金五拾錢
馬外貌名稱圖解	陸軍文庫	同	金拾貳錢五厘
馬療新論	同、中欽哉	貳冊	金三錢
馬原病學	同	壹冊	金五拾四錢三厘
馬疫豫防法	同、荒井義通	同	金拾四錢
療馬方符	同	同	金四錢
牛馬治療獨案內	牧野終太	同	金拾五錢
狂犬病說	陸軍文庫	同	金貳拾五錢
馬騾養法	全、深谷周三	壹葉	金拾錢
獸醫解剖篇	原八百太郎	同	金四錢
獸醫藥物論	佐藤悠次郎	全	近刻

農商務省農務局御藏版

斯氏農書 賢理斯的墳原著 岡田好樹譯 全六十四册 定價十九圓 六十五錢

全上

英國農業篇 岡田好樹譯 全拾壹册 全貳圓七十五錢

農商務省庶務局御藏版

氏通俗農家必携 關澄普原著 全四册 全七圓

右三書共歐洲農書中最モ完全有名ノ良書ニシテ耕作土質開墾肥料農具ヨリ果樹ノ栽培牧畜養魚ニ至ル迄網羅會萃殘ス所ナシ且ツ農業ノ遲緩ナルハ牧畜ノ盛大ナラサルニ依ルチ説キ農事ハ竟ニ牧畜ト相密着シ農事ノ盛衰ハ牧畜ニ依テ消長チ相成ス等實地ト學術トヲ以テ淵源ヲ究厥シ深理ヲ説明スル三書ノ外ニ漏ル、トナシ獸醫チ業トスル者苟モ此書ニ依テ其由來スル所チ原子實務ニ從事セハ其益蓋シ數少ナラサラン

明治十八年十二月二日出版御屆

定價拾五錢

東京書肆

編輯兼出版人 穴山篤太郎

京橋區南傳馬町 貳丁目十三番地

發兌 農書肆 有隣堂

全所

印刷 有隣堂活版所

19
49

